

入来院重朝



政治生命という言葉を最近よく耳にします。つまり耳新しいのです。政治に生命があるかの如くであり、そもそも現下の政治をとことん考察していかない小生にとって、特定の人物が気易く口にするのをみると、ますますその言葉がフワフワとそこらを浮遊するかのようであります。我が国には昔より言霊という云い方があります。言葉は我々日本人にとつて軽々に用うべきではないという思いがこもっています。

さて我が国の風潮は、マッカーサー憲法がその見本である実体のない空々しい文云が我が日本人の日常即言論の主流となつて現在に

至っていることをしみじみと 생각합니다。

要するに日本語は新しいイミを持ち始めたのであります。その風潮と軌を一にして我々日本人の顔が一変したのであります。そのわかり易い見本は現下の野田内閣の面々をこちらになれば一目瞭然であります。

一見丁寧な言葉づかいが、まるでロボットのおしゃべりの如くであり、聞き手に何ら新鮮な感銘を残さないその完璧さにほとほと感心する御仁が我が国の総理大臣であります。思えば総理になりたいと、自らドジョウとわけのわからないことを云つてみんなをケムにまいたつもりかどうかもよくわからない野田総理であります。三年前戦後はじめて政権交替で政権についた民主党の三人目の首相として世界にお目見えした実に戦後六十五年たつて生まれた日本人の顔であります。何の陰影もない、実にノッペラのただ酒やけでつやつ

やして、よく太った小父さん、それも人のよさそうなどこか商店街の顔役ピッタリの彼が今や日本国の総理であり、それが日本国の現実であり、我が日本人の合わせ鏡で見る我々自身であります。つまり我が国からサムライがいなくなつたとかつて私は云いましたが、今は我が国にはオトコが不在であるというのが正しいと考えています。そのことはここ数年ますます顕著になつたと思いませんか。

生き生きと実に顕著に実力を發揮しているのは我が国においてほとんど女性であります。それは良きにつけ悪きにつけ女性こそが我が国の実体を支えリードしています。オンナは生まれた時から死ぬまでに完全にオンナであります。つまり性染色体がX・Xであり安定しています。オトコはX・Yの構成で不安定です。理屈はどうでも、そのことは古来よりオトコは弱いものとして世間はわかつていま

したから、強いオンナ人間社会の継続に最も大事なオンナを守らせるために育てるのが大人の責務でした。つまりオトコはほつたらかせておけば何の役にも立たない無駄飯喰いであり、マサにそれは許されないのです。

さて我が国には今やオトコもどきしかないのでありますが、なぜそうなつたかははっきりしていません。

戦後、即ち敗戦以来マッカーサーは我が日本人が蘇らないように巧妙な手を打ちました。それも実に簡単な手であります。つまり「教育勅語」の発禁であり、オトコがオトコになる通過儀礼としての兵役の廃止です。つまりこのことは我が日本国はアメリカの属国としては国もどきであり、そこでのオトコはオトコもどきにならざるを得ません。ただし我が自衛隊、これも軍隊もどきであるにせよ、辛うじて日本男子の面魂を守つてくれたと、

三・一一以来明らかになりました。

さて日本の特徴はオトコ不在ながら何とか国柄を維持していることではありますが、もともと国柄自体がたおやかさでありますから不思議でもないことです。

今や世界はカネ・ヒト・モノが一体化しつつあり国同士の戦争も仲々しづらくなりつつあります。しかし戦争は人類の宿痾であり、人口の爆発的過剰は何時戦争を誘発するか予断を許しません。

しかし先進国は今やことごとく二〇年遅れて日本化しつつあり、なでしこ日本は今や先進国のモデルとなりつつあります。つまり日本もどきが先進国の行く着く先ということですから。このことを考えると世界からだんだんオトコがいなくなりつつあるのかも知れませんが、そう考えると今年の世界の主要国のトップが交替するようですが、いつそドイツの首相

メルケル女史にあやかっで一斉に女性がトップになれば良いと私は思います。オトコらしい首相は今や望むべくもありません。イギリスのエリザベス女王六十年の治世は 思えば今世紀の華でありました。

(炬ばたセイ談庵主)



アンゲラ・メルケル (wikipedia より)